

第39回やまぐち眼科フォーラム

拝啓

時下、先生方におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、この度下記要綱にて「第39回やまぐち眼科フォーラム」を開催する運びとなりました。ご多用とは存じますが、ご臨席賜りますようご案内申し上げます。

謹白

日時：2023年6月17日(土) 17:00-19:00

場所：KDDI維新ホール 201号室

山口県山口市小郡令和1丁目1-1

会費：3,000円

特別講演1 17:00～18:00

山口県眼科医会 会長/大西眼科 院長

座長 大西 徹 先生



加齢黄斑変性治療の現状と近未来

演題

琉球大学大学院医学系研究科 医学専攻眼科学講座 教授 古泉 英貴 先生

特別講演2 18:00～19:00

山口大学大学院医学系研究科 眼科学 教授

座長 木村 和博 先生

難治性眼表面疾患の診方と考え方

演題

京都府立医科大学 眼科学教室 教授 外園 千恵 先生



※生涯教育認定事業（申請中）1単位
※会場にてお弁当をご用意しております

共催：山口県眼科医会
中外製薬株式会社

第39回やまぐち眼科フォーラム

◇演者◇

古泉 英貴 先生 琉球大学大学院医学系研究科 医学専攻眼科学講座 教授

加齢黄斑変性（AMD）の治療は抗血管内皮増殖因子（VEGF）薬の登場とともに、視力維持から視力改善を目指す時代へと進化した。約15年の歳月の中に分子構造や標的サイトカインの異なる薬剤が次々と登場し、あたかも緑内障の点眼薬のごとく、病態に応じて最適な薬剤を選択する時代が到来したといえる。その一方で、頻回の治療を要する例や治療抵抗例の存在、長期的には黄斑萎縮や線維化といった、抗VEGF治療にまつわる諸問題は依然存在する。また本邦のAMDは欧米と病態や表現型が大きく異なるため、海外の臨床試験の結果をそのまま鵜呑みにすることはできない。治療効果と同じ、あるいはそれ以上に安全性の問題も重要である。本講演ではAMDに対する抗VEGF治療の現状と問題点を振り返り、近未来のAMD治療について考えてみたい。

◇演者◇

外園 千恵 先生 京都府立医科大学 眼科学教室 教授

角膜上皮のステムセルは角膜と結膜の境界部である輪部と呼ばれる幅1-2ミリの部分に存在し、正常眼では輪部基底層にあるステムセルがゆっくりと増殖して角膜上皮細胞を供給している。何らかの原因で角膜上皮ステムセルが疲弊すると、角膜表面に結膜が侵入し、瞳孔縁が結膜に置き換わると角膜透明性が損なわれて視力障害をきたす。そのような疾患を「角膜上皮ステムセル疲弊症」と呼び、原因別で分類すると先天性として先天無虹彩、後天性として薬剤毒性、腫瘍などがある。後天性のうち熱・化学外傷、Stevens-Johnson症候群、眼類天疱瘡は、結膜も含めて眼表面が広範囲に障害され、移植を行っても予後不良であることから「難治性眼表面疾患（Severe ocular surface disease）」と呼ばれる。「難治性眼表面疾患」はいずれも急性期（発症時）あるいは急性増悪時の治療が、視力予後に大きく影響する。熱・化学外傷では受傷時に、Stevens-Johnson症候群は発症時に、感染に留意しながら速やかに全身および局所にステロイドを投与して消炎をはかることが有用である。眼類天疱瘡は初期に気づかれないまま白内障などの手術治療を受けると、急性に増悪し、極めて難治な上皮欠損をきたす。このため睫毛乱生とドライアイを伴う高齢者では眼類天疱瘡を鑑別することが重要であり、その手術治療ではステロイド内服等を併用して急性増悪を予防する。本講演では誰もが突然に遭遇し、対処を求められる難治性眼表面疾患の病態を解説し、診察のコツ、治療の考え方を述べさせていただく。